

若者の出会いをサポート 「お節介人」の育成や 婚活団体へ補助金を交付

問 本市の婚活支援に対する取り組みについて聞く。

答 本市は、平成27年に策定した明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、若い世代の結婚につながる支

援を進めている。具体的には、独身者の出会いを支援する「お節介人」の育成として、支援者向けの婚活応援ハンドブックを作成し配布するとともに、支援者の交流会を行っている。さらに、民間団体の婚活イベントを支援するため婚活支援事業補助金制度を設けている。29年度は、サポートを通じた交流、ランチタイムを一緒に楽しむイベントなどを開催した3団体に対して補助金の交付を行い、合計で約170名の参加があり、約20組のカップルが成立した。

また、今年4月に明石商工会議所1階に移転した県の東播磨出会いサポートセンターとも連携し、婚活イベントなどの情報発信に努めるとともに、今後も支援者や婚活支援団体との連携をより一層進めていく。



「お節介人」への講習

社会問題化する災害ごみ 災害廃棄物処理計画 早期に策定を

問 大規模災害で損壊や浸水した家屋、家財道具、流木などの災害ごみが大量に発生し、その処理が社会問題化している。国は自治体に収集方法や仮置き場の候補地などを定める災害廃棄物処理計画の策定を要請している。報道によると、災害廃棄物処理計画は県下41市町中、11市町が策定済

問 大規模災害で損壊や浸水した家屋、家財道具、流木などの災害ごみが大量に発生し、その処理が社会問題化している。国は自治体に収集方法や仮置き場の候補地などを定める災害廃棄物処理計画の策定を要請している。報道によると、災害廃棄物処理計画は県下41市町中、11市町が策定済

答 本市では、今年7月、環境室に検討部会を設置し、国の指針と県の処理計画を踏まえ、計画策定を進めている。なお、上位計画である市の地域防災計画に沿って、災害発生前の平時の備え、発生後の応急対策、その後の復旧・復興対策に分けて検討するとともに、海洋性地震、内陸部地震や風水害で発生する廃棄物の推計、分別方法、市の組織体制、職員の行動指針等を盛り込む予定である。今年度中も視野に入れ、早期に計画を策定する考えだ。

問 地球温暖化対策として、二酸化炭素(CO2)などの温室効果ガスを削減するため、ごみの減量化を推進するべきだ。また、ごみ埋立処分場の延命化について聞く。

答 本市のごみ排出量は、家庭系ごみは減少し、事業系ごみは横ばいとなっている。削減目標は、今後7年で現状より15・9%少ない8万



分別は再資源化への第一歩

トンである。ごみの減量対策として、分別品目を増やすことは有効であるが、市民の負担が増すことから、今後、新ごみ処理施設の検討を行う際に調査、研究を進めていく。なお、ごみ指定袋の導入については、市民の理解が必要なため慎重に取り組んでいく考えだ。また、ごみ埋立処分場の延命化は、当初の計画では第3次最終処分場が2024年度で終了する予定であったが、紙類・布類の分別や再資源化の推進により、10年の延命が可能と見込んでいる。加えて、ごみの焼却灰を大阪湾に埋め立て処分する大阪湾フェニックス計画の3期事業にも、本市は引き続き参加する予定である。

ごみ減量化の取り組み 指定袋の導入は慎重に検討 資源化推進で処分場は10年延命

教育長 任命に同意
教育長として、清重隆信氏(51歳・大蔵本町)を任命することに同意しました。同氏は昭和61年に文部科学省に入省、初等中等教育局財務課教育財政室長、同局視学官などを歴任、今年7月から明石市理事(教育担当)を務められていました。なお、教育長の任期は3年です。

教育委員会委員 任命に同意
教育委員会委員の任期満了となる川本まり子氏(62歳・王子2丁目)を引き続き任命することに同意しました。同氏は明石保育協会会長や明石市教育委員会委員長などを歴任、同委員には平成22年から就任し今回で3期目です。

監査委員 選任に同意
識見を有する者の中から選任する監査委員のうち、任期満了となる星川啓明氏(62歳・上ノ丸3丁目)を引き続き選任することに同意しました。同氏は公認会計士として活躍されており、平成14年から同委員に就任し今回で5期目です。なお、任期は4年です。

市制施行100周年を市民とともに

総務 常任委員長に聞く



うめだ こうき
梅田 宏希
在職6期。議長、副議長、監査委員、文教厚生常任委員長などを歴任。66歳。

重点的に取り組む事項
来年には市制施行100周年、明石城築城400周年を迎えます。具体的な100周年記念事業では、各種団体などをはじめ、市民とともに取り組んでいきたいと思っております。幅広い世代の市民が、明石に住んでよかった、これからも住み続けたいと思えるよう、本市の魅力を発信していきます。ふるさと納税では、漁協や農協、市内企業と連携し、地場産品や企業の優良製品など返礼品のラインナップを拡充し、税収をプラスにできるよう取り組んでいます。

委員長として一言
消防、防犯、防災など市民の生命や財産を守るための課題から、市政の在り方、将来を見据えた政策などを議論していきます。これからも市民に身近な市政の実現に取り組んでいきます。

先進的な施策でまちの好循環を

文教厚生 常任委員長に聞く



みよし ひろし
三好 宏
在職3期。議長、副議長、監査委員、総務常任委員長などを歴任。53歳。

重点的に取り組む事項
中学校給食は、東部給食センターが稼働し、全校で栄養バランスの良い温かい給食の提供が始まり、地産地消を意識した食育を推進しています。

委員として一言
また、中核市移行に伴い、あかし保健所を設置しました。身近な基礎自治体として、より早くより細やかなサービスを提供します。

先進的な施策を推進する中、人口と税収が増え、にぎわいが戻り、まちの好循環が感じられます。この流れをさらに加速し、今後も明石に住み続けたいと思ってもらえるよう、舵取りを担っていきます。